

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局： TBS	番組名： 報道特集	放送日： 2018 年 6 月 16 日
出演者： 日下部正樹 膳場貴子 金平茂樹 日比麻音子		
検証テーマ： 玄海原発再稼働、カジノ整備法案と国会会期延長、G7 とトランプ大統領 子どもの貧困、【特集】 米朝首脳会談と朝鮮戦争		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> ・ 台風 6 号 ・ スポーツ報道【W 杯】 ・ 日本貨物航空 ・ 障害者施設入居者死亡 ・ 玄海原発再稼働 ・ カジノ整備法案と国会会期延長 ・ G7 とトランプ大統領 ・ 千葉で地震 ・ 子どもの貧困： 低所得世帯、三人に一人がアルバイト ・ 品川駅で工事、京浜東北線と東海道線があす午前で一部運休 ・ 【特集】 米朝首脳会談と朝鮮戦争 ・ スポーツ報道 		
放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング <p>オープニングでは金平キャスターが「えー歴史の歯車というのは書かれた文章だとか周到な準備によってではなく、相手と直接であって握手を交わした時の手の感触とかまっすぐに自分を見つめる視線によって大きく動くことがあるのではないのでしょうか。歴史的なシンガポールの米朝首脳会談今日の特集で検証します。」とコメントしていた。今回はこのコメントの通り、特集で米朝首脳会談について取り上げていた。このコメントに当てられた時間は 18 秒で、放送法第四条の観点からも問題は見られなかった。</p> ・ 九電と原発： 結論→特に問題なし <p>九州電力の玄海原発 4 号機では今日午前 11 時核分裂反応を抑える制御棒を引き抜く作業が行われ、原子炉が起動したこと、再稼働は 2011 年 12 月に定期検査のため運転を停止して以来、およそ 6 年半ぶりの再稼働であること、玄海原発 4 号機では先月冷却水を循環させるポンプに不具合が見つかり再稼働は 3 週間ほどずれ込んだこと、福島第一原発の事故後、安全対策を厳しくした新しい規制基準のもとでの再稼働は 5 原発 9 基目であること、が報じられた。また一方で玄海原発の前では再稼働に反対する市民団体が集まり、抗議の声を上げましたことも報じられた。このトピックに当てられた時間は 63 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。</p> ・ カジノ整備法案と国会会期延長： 結論→特に問題なし <p>今国会の会期末が来週 20 日に迫る中自民党の森山委員長は今日午後、カジノ整備法案などの重要法案について今の国会で成立を目指すことと述べたこと、政府与党は会期を 1 か月程度延長する方向で検討していること、野党</p> 		

は会期延長に反対していて今後は内閣不信任案の提出を検討するなど徹底抗戦する構えであることが報じられた。また、自民党の森山裕国対委員長が鹿児島市内の記者団の取材に対し「今の国会で重要法案については成立を目指すということです。最終的に判断をするのは 20 日であることは間違いないと思っております。」と答えるシーンが取り上げられていた。このトピックに当てられた時間は 75 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題はありませんでした。

・ G7 とトランプ大統領：結論→特に問題なし

アメリカのトランプ大統領が先週カナダで開かれた G7 サミットで安倍総理に『シンゾー、君はこの問題を抱えていないが私が日本にメキシコ人 2500 万人を送れば君はすぐ退陣することになる』と話していたとウォール・ストリート・ジャーナルや CNN が伝えたということ、テロ問題などに関する議論ではフランスのマクロン大統領に「君がこの問題に詳しいだろう。テロリストは全員パリにいるんだから」などと発言したということも伝えられた。

報道特集の中では「G7 サミットでは貿易の問題をめぐりトランプ氏が孤立する構図となっていたことからそうした中で暴言ともとれる発言がでた可能性があります」とナレーションで述べられていた。

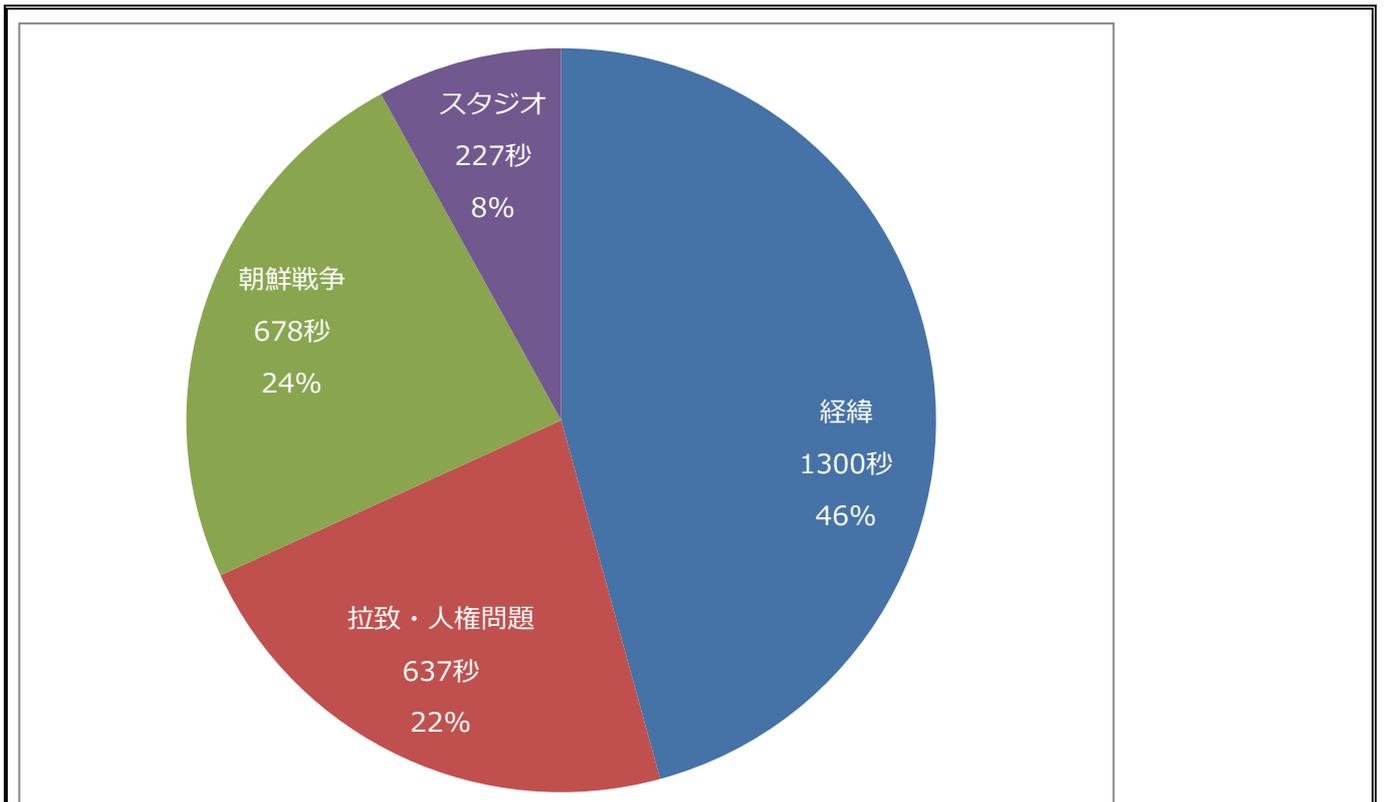
このトピックに当てられた時間は 64 秒で、放送法第四条の見地からは問題は見られなかった。

・ 子どもの貧困：結論→特に問題なし

子どもの貧困対策に取り組む公益財団法人『あすのぼ』が支援する低所得世帯の子供と保護者およそ 1500 人に対して行った調査に対して、高校一年生の三人に一人がアルバイトをしていて使いみちとして 35%が学校の費用に、15%が生活費にと回答したこと、経済的な理由で塾や習い事を諦めたと答えた保護者はおよそ 7 割に登ったこと、調査から「子どもの貧困は多様でひとり親の過程に限らず両親がいても子供が多い過程は支援が少なく厳しい状況だ」と分析していることが伝えられた。この報道に当てられた時間は 52 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・【特集】米朝首脳会談：結論→特に問題なし

米朝首脳会談について取り上げられた。このトピックに当てられた時間は 2842 秒で、米朝首脳会談自体の経緯について、拉致・人権問題について、朝鮮戦争について、スタジオでの議論に大きく分けられた。時間配分及び比率は以下の通りであった。



経緯では米朝首脳会談の様子や南洋理工大学で朝鮮半島問題を専門とする研究員のショウン・ホー氏の「同じアジアの国であるシンガポールが 50 年ほどでどれほど発展したかを見たことは、いい経験になったと思われま

す。北朝鮮が開かれた経済を目指すなら、シンガポールでの今回の首脳会談で何を得たかが大事です。」というコメントや、文在寅大統領の補佐官で外交ブレーンの文正仁氏の「北朝鮮のスローガンであった強盛大国を富国強兵に変換したという印象です。強盛大国は軍事力を育成してから経済を復興させるというものですが、富国強兵は経済力があれば自然と国防力はついてくるという考え方です。」や「かなり衝撃を受けました。私は以前からそのように主張してきましたが、トランプ大統領が米韓軍事演習の中止を発表したに非常に共感しています。北朝鮮が約束したことに対し、アメリカもこれぐらいはしてあげようという未来志向の戦略的布石だと思います。」というコメント、国連安保理北朝鮮制裁委員会の元メンバーの古川勝久氏の「トランプ大統領は北朝鮮に対して体制保障を提供するという何のこともわからない言葉が一つ入っております。でさらに米朝関係に関しては新しい関係を確立するよう務めるとこれも何のことも全くわからない。つまり過去のアメリカの政権がいわゆる北朝鮮と目指してきた国交正常化に向けた具体的なプロセス。これよりもはるかに曖昧かつ意味が不明な合意しかできておりません。」や「北に対する圧力が経済制裁と軍事的圧力です。残念ながらこの軍事的圧力に関してはトランプ大統領がもうすでに外してしまいました。あの非常に軽率な行為でした。北朝鮮とこれから交渉するときに重要なカードを自ら北朝鮮が望む以上のカードを引き上げてしまった。しかも自分の同盟国である韓国と事前の相談もなく彼らを背中からナイフで刺すような形でやってしまった」および「より現実的に考えるならば、やはり一定の北朝鮮の軍縮のプロセスを得るために何らかの見返りというものを与え、北朝鮮がどのようなリアクションをとったらどの制裁を緩和するのかこういうことをより丁寧に私たちは考えなければいけないと思います。」というコメントが取り上げられていた他、韓国の若者の声や北朝鮮国内についての様子も取り上げられていた。特に北朝鮮についてはアジアプレスに取材した様子が以下に朱記したように取り上げられていた。

ナレ「北朝鮮内部の取材を続けるアジアプレスは北朝鮮北部に住む取材協力者に電話で話を聞いた。」

北朝鮮の取材協力者(字幕)「アメリカと会談するのを見て『すごい』と人々は言っている。年も若いのに大国と

会談して他の国なら考えられないでしょう。(アメリカは)我が国の核兵器が恐ろしかったんでしょうね。皆が(正恩氏を)大天才だと言ってますが本当かもしれません。首領様、将軍様もできなかったことを若い元帥様がやっ
てのけたのですから。私たちの暮らしをよくしてくれるのは元帥様しかいないと期待が大きくなりました。」

ナレ「アジアプレスの石丸次郎氏はこう解説する。」

石丸氏「昨年での金正恩氏に対する一般庶民の評価はそこまで決して芳しいものではなかったと思いますね。ところが年をあけて次々に中国、韓国、アメリカのトップとさしで話し合うという場を持ってですね。もう一気にこれは若い指導者は大したもんだ。という風に人気もV字回復 それから評価も一気にあがったとっていいと思いますね。」

ナレ「一方で住民の生活は悪化 北部のムサン郡では経済制裁で中国への鉄鉱石輸出がストップし、給料も食料の配給も止まっているという。」

北朝鮮の住民とのチャット(吹替)「職場を早退したり半月から1か月病気の治療ということにして休んだりしてみんな薬草採りや山菜採りに出るんです。薬草は売って金を作り山菜は食料に混ぜて食べます。」

ナレ「生活の不満が募る中 統制も強まっているという。北朝鮮の取材協力者(字幕)政府は全て間違っています統制して取り締まって法律違反だといって取り上げるここで法律違反をせずに暮らせる人がいますか?そうしなくてもいいよう国が何とかすべきです。ここでは当局が殴るなら殴られる『違法だから捕まえる』と言われれば(監獄に)入る自分がいくら正しくても国には勝てないから」

ナレ「住民は北朝鮮が変わっていくと感じているのだろうか?」

北朝鮮の取材協力者(字幕)「改革開放は 貧しい人々が切実に望んでいることですがいい暮らしをしている連中やトップの人がそれを望みますか?祖父(金日成)の時から守ってきた社会主義を簡単には捨てられないでしょう。」

ナレ「北朝鮮にとって成果のあった首脳会談だが問題は住民生活を向上させられるかだ。」

石丸氏「この一連の首脳会談の結果やはり経済的な成果つまり暮らしの改善が遅れると逆に何だったんだ?この首脳会談はなんか意味があったのかとそういう風に人々の気持ちが変わっていく可能性があると思います。であまり時間が残されていると思えない。金正恩政権に対しては、経済的な成果を求める傾向が国内では強くなっていくじゃないかなと思います。」

拉致および人権問題については以下に朱記した2つのシーンが取り上げられていた。

【シーン1：人権問題について】

ナレ「トランプ大統領の会見で非核化とともに質問が集中したのが北朝鮮の人権問題だった。」

記者(吹替)「もう一つの大きな問題人権問題については議論しましたか?」

トランプ大統領(字幕)「議論した。将来人権問題についてさらに議論する。」

記者(吹替)「金正恩氏の自国民への人権問題への対応を期待しますか?」

トランプ大統領(字幕)「ええ彼はとても賢くて交渉上手で正しいことをやろうとしている。」

記者(吹替)「北朝鮮政府を正当化することは収容所の10万の北朝鮮人を裏切ることになりませんか?」

トランプ大統領(字幕)「私は彼らを助けたと思っているなぜなら今後状況は変化していくからだ。」

ナレ「今年2月トランプ大統領はホワイトハウスで6人の脱北者と面会した。その席で北朝鮮の人権問題に取り組む考えを示した。」

トランプ大統領(字幕)「そとにまだ2人いるが処刑されるのを恐れてここには入って来られない。彼らのように苦しんできた人たちが北朝鮮にはまだたくさんいるんだ。」

ナレ「トランプ大統領と面会した脱北者の一人チョン・グァンイルさん 北朝鮮で政治犯として3年間収容所に

入れられていたチョンさん2003年に脱北翌年韓国にわたり2年前から北朝鮮の人権問題に取り組んでいる。」

記者（字幕）「どんな活動をしていますか？」

チョン氏(脱北者団体代表)「ペットボトルに米を3分の2ぐらいと USB メモリーをいれて外部の状況と食料を提供しています。」

記者（字幕）「USBの中身は？チョン氏（吹替）中身は韓国やアメリカの日常生活です。外国人の生活をそのまま見せているものもあれば、北朝鮮の現状を伝えているものもあります。」

ナレ「これは USB メモリーに収められている映像だ。海外の大ヒット映画や時事問題に関するニュースさらに贅沢な生活を送る正恩氏とこの裏で貧困にあえぐ国民の姿を映しだしている。」

チョン氏（吹替）「こういう映像を見せて北朝鮮の人たちがいかに奴隷のような生活を送っているか気づいてもらいたいです。この支援は北朝鮮の人々を助けるのが目的で独裁者のためではありません。」 "

金平「ああ結構向こうのほうに人が集まっているのが見えるね。」

住民（字幕）「北朝鮮の同胞に惜しむことなく私たちの豊かな食料と必要なすべてのものを分け与えることができますように。」 "

ナレ「おとといチョンさんたちは北朝鮮から10キロほど離れた国境付近にある島から故郷に向けて米と USB の入ったペットボトルを投げ込んだ。」

金平「チョンさんたちはホワイトハウスでトランプ大統領に面会しましたよね？とても友好的な雰囲気だったですよ？」

チョン氏（吹替）「その時はね。でも今は違います。」

金平「金正恩とそれからトランプさんがトップ会談を行いましたけれども率直なところどんな思いがしましたか？」

チョン氏(吹替)「気分はよくないです。”金正恩は国民のことを思っている”なんてトランプに言ってほしくない。北朝鮮の国民を思っている人が自分のお兄さんを殺しますか 幹部だって処刑して自分のおじさんも殺した人なのに話にならないよ。」

【シーン2：拉致問題について】

ナレ「日本にとって重要な拉致問題米朝首脳会談で議題に上がった。」

記者（字幕）「拉致問題は取り上げましたか？」

トランプ大統領（字幕）「取り上げた 拉致問題は安倍首相にとって完全非核化について重要な課題の一つだ。合意文書には盛り込まなかったが北朝鮮はとりくんでいくだろう。」 "

ナレ「金党委員長は日本との首脳会談について前向きな姿勢を見せたという。今後日朝交渉に向けた動きが本格化する。拉致被害者の蓮池薫さんは今回の米朝会談をどう見たのだろうか。」

蓮池氏「無性に腹が立ちましたね。なんで今なんだという。これがもっと早く動いていれば 拉致問題の解決も早かっただろうし、もっと早ければ拉致事件もおきない可能性だってあったということ考えると非常に複雑な思いで最初の出会いの場面をみていました。」

ナレ「蓮池さんは40年前北朝鮮に拉致された。帰国するまでの24年間目の当たりにしたのはアメリカを敵とみなし、軍事を最優先する監視統制社会だった。北朝鮮では深刻な食糧難のなかこんなスローガンが使われていたという。」

蓮池氏「『ベルトを締める』っていうのは胃が空っぽになっていると力が入らないわけじゃないですか。おなかすいても頑張ろうでそれはアメリカとの対決のモードの中でそのスローガンはもう絶えずあったような感じで 」

ナレ「今回の共同声明にある『新しい米朝関係の樹立』という言葉に注目している。」

蓮池氏「米朝関係が正常化するようなことになると北の社会は凶らずも大きな変化をせざるを得なくなってくるんですね。1つは国内において軍隊の影響力を減らざるを得ないもう1つはアメリカという敵というものがそういう階級闘争といいますけれども敵対思想、反米思想とかをを統治に使えなくなる。使ってもあまり効果がなくなるそういうほうに一歩踏み出したんだなと。」

ナレ「そして拉致問題。解決のためには非核化に向けた支援と経済的支援を段階的に段階的に分ける必要があるという。」

膳場「ではこれから先の交渉というのは何をしていたら成果が得られると？」

蓮池氏「非核化が進んだ時の IAEA の査察の費用であったりはそういったものはもう日本は出すと言っているわけですが菅官房長官は出すと言っているわけですから。それはもう非核化を進めるうえでのコストは出さざるを得ないでしょうけども、第2段階は人道主義的支援ここに至る場合は出しちゃいけない拉致問題が全部出るまでは出すべきじゃない。」

ナレ「拉致問題の解決を前提に日本にしかできない支援のメニューを準備する必要があると考えている。」

蓮池氏「つまり日本の支援は他とはまた違った北にとって有利なものであるというものを準備をし、北に対して示すタイミングがあると思うし、」

膳場「北朝鮮の今後にとってメリットになるような青写真 日本が提示するとしたらどのようなものが考えられますか？」

蓮池氏「やっぱり北が今一番求めているもの 来たが一番苦しんでいるものと言ったら電力なんですよ。電力で今一番苦しんでいるわけですから。電力で日本が何かできるよと」

膳場「技術供与とかそういうことでしょうか。」

蓮池氏「そうですね具体的に言いますと、火力発電なんですけど石炭なんですよ。石炭火力っていうのは結構効率が悪くはないらしい 古いし、ところが日本はあの石炭火力という世界トップの効率性の高いものがある。」

膳場「そうですね排熱をほとんど出さないものがありますよね。」

蓮池氏「そういったものはどこから手が出るほど欲しいだろうと」

ナレ「それでも拉致問題の交渉がうまくいくかは不透明だ。そこで重要になるのは拉致被害者の具体的な生存情報だという。」

蓮池氏「最後はですね（拉致被害者の）情報ですよ。北が出し渋る可能性が十分ある。北の主張を『死亡した』と書いて来た時にそれをひっくりかえせるようなものを使わずに済めば一番いいです。そうならない場合、それをいかに日本としては一つ大きな武器としてですね利用していくか」

朝鮮戦争についても在日学徒義勇軍および警察予備隊・自衛隊についてが取り上げられていた。

【シーン1：在日学徒義勇軍】

ナレ「先週の日米首脳会談でトランプ大統領が自信を見せていたテーマがある。」

トランプ大統領（字幕）「合意は間違えなくあり得る彼らと協議中だ。」

ナレ「休戦状態が60年以上続く朝鮮戦争の終結について合意する可能性があると明らかにしたのだ。」

ナレ「結局今回の米朝会談での合意はなかったが、大統領は『米朝の新しい歴史を始める準備はできている』としたうえで、戦争終結への期待を述べた。」

トランプ大統領（字幕）「休戦協定は結ばれたもののこの戦争は1度も終結していないしかし今これが間もなく終結すると希望を抱くところができる。戦争は誰にでも起こせるが、平和は本当に勇敢なものにしか作れない。」

ナレ「1950年6月に始まった朝鮮戦争第二次世界大戦後北緯38度線を境に分断された朝鮮半島で武力統一

を狙った北朝鮮軍が韓国へ侵攻したのだ。戦闘はアメリカを中心とする国連軍と北朝鮮軍、中国義勇軍との間で泥沼化、犠牲者はおよそ3年間で民間人を含め300万人に上るとみられている。朝鮮戦争をきっかけに創られたソウル市内の国立墓地には。」

金平「このように私の周りにお墓を見ますとですね1950年、51年、52年というようなですね朝鮮戦争中に戦死された方々のお墓が非常に多いということがすぐに見て取れます。」

ナレ「5万4000余りある墓の多くが朝鮮戦争で戦死した人のものだという」

ナレ「実はこの朝鮮戦争には、日本にいた韓国人の若者たち642人も在日学徒義勇軍として参戦した。東京港区の在日本大韓民国民団中央本部の前には」

日下部正樹「これはですね朝鮮戦争に参戦して戦死した在日韓国人の若者たち135人の名前が刻まれた忠魂碑なんですね。朝鮮戦争の際、600人以上のですね、在日韓国人の若者たちが朝鮮半島にわたって激戦を戦い抜いた。この事実はあまり知られていません。」

ナレ「先週日本に住む一人のもと義勇兵がなくなった。91歳の朴鳳王民さんだ。朴さんは義勇軍の第一陣として1950年9月朝鮮半島にわたった。23歳だった。マッカーサー率いる国連軍が劣勢を挽回するきっかけとなった仁川上陸作戦に参加したという。」

日下部「ようやく日本で戦争が終わってほっとしたと」

朴さんの妻「そういうことです。」

日下部「なぜこう志願したのでしょうか？」

朴さんの妻「やはり国が困っているから自分たちが志願して一緒に戦わなくちゃだめだと」

ナレ「朴さんの通夜に来ていた87歳の柳再萬（リュウ・ジェマン）さん柳さんは第二次世界大戦の終戦を満州で迎えその後19歳で朝鮮戦争で参戦した。敗戦で消滅した満州国と祖国の置かれた状況が重なったからだという。」

柳氏「満州で苦勞してね国がなくなったらね、ダメ、もう終わりですよ。もうそれを経験したからねその時（朝鮮戦争）は死ぬ覚悟で行ったんだから。」

ナレ「仁川で勝利し、北進を続けた国連軍だが、中国軍の介入が始まると戦況が悪化中朝国境付近の激戦で在日学徒義勇軍の戦死者135人のうち3分の2がここで命を落とした。亡くなった朴さんは多くの同志を失ったことに心を痛めていたという。」

朴さんの長男「まあもう残念極まりない本当に申し訳ない。中国軍の方と戦うほうに付いた方、そちらのほうが全滅、壊滅してしまったので運命で命が分かれるということに関してそれはすごく悲しんでいました。」

ナレ「休戦協定から間もなく65年ようやく朝鮮戦争終結の可能性が出てきた。」

日下部「今度シンガポールの会談お父さんに見せてあげたかったですか？」

朴さんの長男「はい、もちろん見せてあげたかったですね。まあリアリスティックな考えで（朝鮮戦争）はいずれはおわるものだとそこから先に続く進んでいくものなので、そういう考えでしたね。」

ナレ「柳さんは懐疑的にみている。あっち（北朝鮮）は外交がうまいよ。だますのうまいし」

日下部「北朝鮮が終戦だといっても信じられない？」

柳さん「（うなづいて肯定）られない。」

【シーン2：日本の自衛隊について】

ナレ「終結の可能性が出てきた朝鮮戦争。68年前に勃発し、戦後日本の安全保証を大きく転換させたきっかけになった。日本に駐留するアメリカ軍が朝鮮戦争に派兵されることで、軍事的空白が生じる。そこで1950年8月警察予備隊が創設されたのだ。のちに自衛隊となるこの警察予備隊に入隊した人物に話を聞くことができた。

元陸軍少佐の堀江正夫さん103歳。30歳の時激戦のニューギニアで敗戦を迎えた。復員後旧陸軍の仲間の誘いを受けて37歳で警察予備隊に入隊した。」

堀江正夫元陸軍少佐「実はその時はまだソ連が北海道を狙っているって時期だった。もう日本に追った米軍が朝鮮に全部言っちゃったから米軍がね。それで特に北海道が空になった北海道を重視しなけりゃならんという時期だったんですね。」

ナレ「先の大戦を経験した堀江さんは朝鮮戦争をどう見ていたのか。」

堀江さん「日本中が補給基地になり米軍の軍事の拠点となったというようなことがあるわけですからね。平和であるべき状況がすぐ隣で火がついて大火事になったんだからそりゃあもうあってはならない。」

ナレ「警察予備隊は保安隊を経て発足からわずか4年で自衛隊となった。 」"

膳場「そういう状況というのは内部でどんな変化があるんですか？例えばこう装備が重装備化していくとか組織が拡大していくとか。」

堀江氏「どんどんどんどん要員を増やすでしょう。どんどんというのは軍隊としての組織をしっかり持たそうとそれに並行して装備がどんどんと 実とはじめカービン銃だけだった。それに今度は機関銃、軽機関銃が入るさらに迫撃砲が入る。」

ナレ「戦争放棄戦力不保持を定めた 憲法9条のもとで再軍備への大きく舵がとられたのだ。当時のニュース映像にはこんな説明が添えられている。 」"

ニュース音声(当時)「世間の声をよそに隊員たちは黙々と行進し、銃を握り力強く大地を踏んで自衛隊は再軍備体制へたくましい前進を続けています。」

堀江氏「吉田総理はあくまでも警察予備隊で軍隊ではないと。ね、軍隊ではない・憲法も変わらないとただ自衛力は現代の憲法は否定していないこういう言い方したわけですね。それでいい加減な状況の中でずーと進んできた今でもその延長線上にある。というのが現状ですよ。」

ナレ「陸上自衛隊を退官したのち堀江さんは参議院議員を12年間務めた。朝鮮戦争が終結するかもしれない。だが北朝鮮への思いは複雑だ。」

堀江氏「今までの日本とのいろんな交渉の中でごまかされていつでも約束を破られた体験があります。だからといって安心はできない。」

膳場「ちゃんとプロセスをきっちり抑えていかないと終結といっても」

堀江氏「そう単なるね核をね 核はもちろんゼロにしてほしい。それ自体が僕はごまかされる可能性がねあるんじゃないかと思っている。あの手この手で二度とごまかされないようにちゃんとしたうえでやってほしい。」

スタジオではVTRを承けて、以下に朱記したやり取りが繰り返された。

膳場「日下部さんは現場となったシンガポール取材何を思いましたか？ 」

日下部「開催地がシンガポールでよかったなあということですね。警備が効率的なせいもあってですね金委員会と市民の距離が非常に近いんですね。北京やウランバートルではできないことですね。ある意味もっとも豊かなアジアの都市を見て金委員長もいろいろ考えることもあったと思いますね。あと一つ奇跡的に役者がピタッとそろったなあということですね。破天荒な二人のリーダーが登場してそこに本来なら登場しないはずの韓国の文在寅大統領が加わったと米朝関係はまさに今全く新しい次元に入ったんじゃないか感じました。ただ2人のリーダーのこれまでの言動を見ても自己中心的で権力欲、それに自己保身が見え隠れするわけですね。今後の米朝交渉が一体誰のためのものなのか何のためのものなのか国際社会は見守る必要があると思いました。」

金平「あのねこの会談の評価っていうのはおそらく世界中で日本が一番厳しいんだと思うんですよ。僕はあのじつは韓国を今週ずっと見てたんですけども、これ韓国の翌日の新聞ですよ。これ全面一面全部使ってこうい

う特大な扱いになっているんですけども、これあれ間違いなく歴史的な会談だと位置付けていると思うんですが、あの韓国の人から見ると北朝鮮の人ってやっぱり同じ民族だっていうその同じ当事者意識というのが非常に強いとだからやっぱりうまくいってほしいなあっていうようなそういう気持ちっていうのを感じられましたですね。」

膳場「会談の評価っていうと拉致被害者の蓮池薫さんはね今回の会談は決して北朝鮮のみに優位な内容ではないとみていらっしやいました。例えば北が恐怖心を覚えている米韓合同演習ですけども本気で非核しなければ再開されるっていうのは実は北の本気度を測るアメリカのカードにもなっていると話してらっしやいました。えーまた拉致問題についてはご自身が帰国した16年前と比べて、時間がさらに立ってしまっているんで拉致被害者には子供だけではなくより多くの孫世代までいる可能性を指摘しておられました。まあそうした状況を踏まえて、被害者家族が北と日本とで再び引き裂かれることがないように、日本政府は対応を考えていかなければならないと指摘されていたのは印象深かったです。」

日下部「拉致問題で一つ気がかりなのは外国のメディアが日本は北朝鮮とパイプがないから拉致問題をトランプ大統領にゆだねているんじゃないかというように見ているところなんです。やはり日本が主導的に動いているというところをもっと世界に示す必要があるとおもいますね。」

金平「文正仁大統領補佐官に聞いたなかで非常に印象的だった言葉がパラダイムシフトって言ったんですよ北朝鮮の金正恩委員長がこれまでの軍事優先から経済的繁栄を目指す方向に変わったのが今回の会談実現に一番大きなコアな部分だとおっしゃっていましたが、まああの外交的な観点からいうと残念ながら日本というのは一貫してアメリカ頼み蚊帳の外っていう現実っていうのは今の時点でも変わってないと思いますね。僕は。」

膳場「以上特集でした。」

2つのテーマを特集で取り上げることが多かったこの番組だが、今回は米朝首脳会談および北朝鮮という一つのテーマを特集で取り上げ、その分、時間も非常に多く取られた特集であった。

時間の枠も豊富であったことから様々な関係者の声を拾い、また拉致や人権問題、朝鮮戦争の問題についても深く掘り下げていた報道であった。そうした点については放送法第四条一項四号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」という点では高く評価できるものだった。しかし、スタジオでの議論では日下部キャスターの「拉致問題で一つ気がかりなのは外国のメディアが日本は北朝鮮とパイプがないから拉致問題をトランプ大統領にゆだねているんじゃないかというように見ているところなんです。やはり日本が主導的に動いているというところをもっと世界に示す必要があるとおもいますね。」や金平キャスターの「外交的な観点からいうと残念ながら日本というの是一貫してアメリカ頼み蚊帳の外っていう現実っていうのは今の時点でも変わってないと思いますね。僕は。」というコメントで、「日本は蚊帳の外」、「日本外交はアメリカ頼み」と語っていたが、特集では日本外交自体や海外から見た日本外交についてはほとんど取り上げられていなかったにもかかわらずこうした評価を一方的に下すというのは放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」という点ではやや不十分なものだったのが極めて残念に思えた。

スタジオで日本外交について言及するなら、やはり報道特集のVTRの中でももっと日本外交についても掘り下げるべきであり、なぜ日本が蚊帳の外やアメリカ頼みの外交と言えるのか、あるいは北朝鮮とのパイプがないのか、その原因はどこにあり、どういった解決策があるのかという点についてももっと深く掘り下げるべきであろう。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・【特集】 米朝首脳会談

スタジオでは日本政府に注文をつける割には、実際に日本政府が何を考えて何をしようとしているのかということについての政府関係者などに対する取材が非常に不十分なものであるように感じる。